

新潟焼山の火山活動解説資料（令和 7 年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図 1～5、図 6－①②、図 7－①②、図 9）

噴煙活動は低調に経過しました。山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上 100m 以下で経過しました。

陸上自衛隊第 12 旅団の協力により 17 日に実施した上空からの観測では、前回（2025 年 4 月）の観測に引き続き、東側噴気孔群の B 噴気孔で白色の噴気が認められました。その他の噴気孔からの噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 6－③④⑤、図 7－③④、図 8、図 10）

新潟焼山周辺の地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 6－⑥⑦、図 11）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められませんでした。

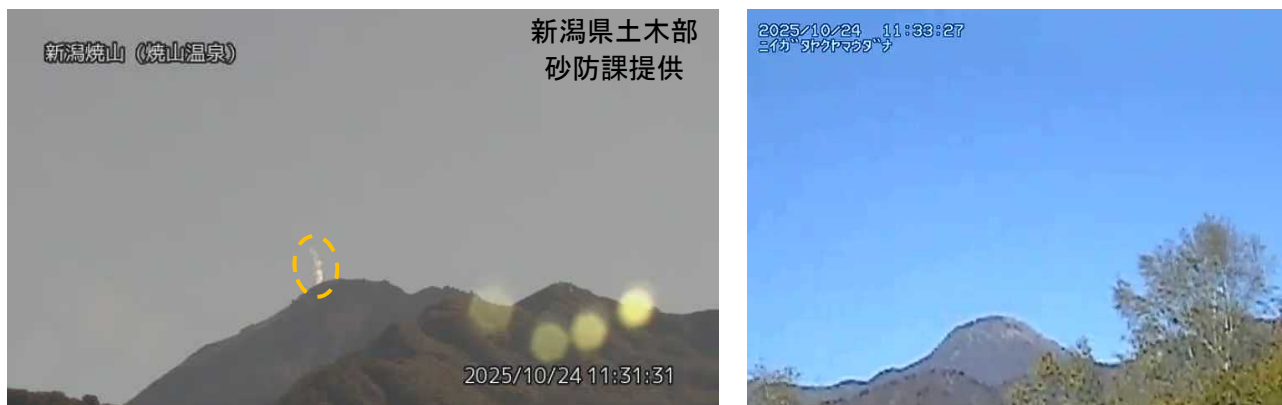


図 1 新潟焼山 山頂部の噴煙（橙色枠）の状況

（左：焼山温泉監視カメラ（10 月 24 日）、右：宇棚監視カメラ（10 月 24 日）による）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和 7 年 11 月分）は令和 7 年 12 月 8 日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています。

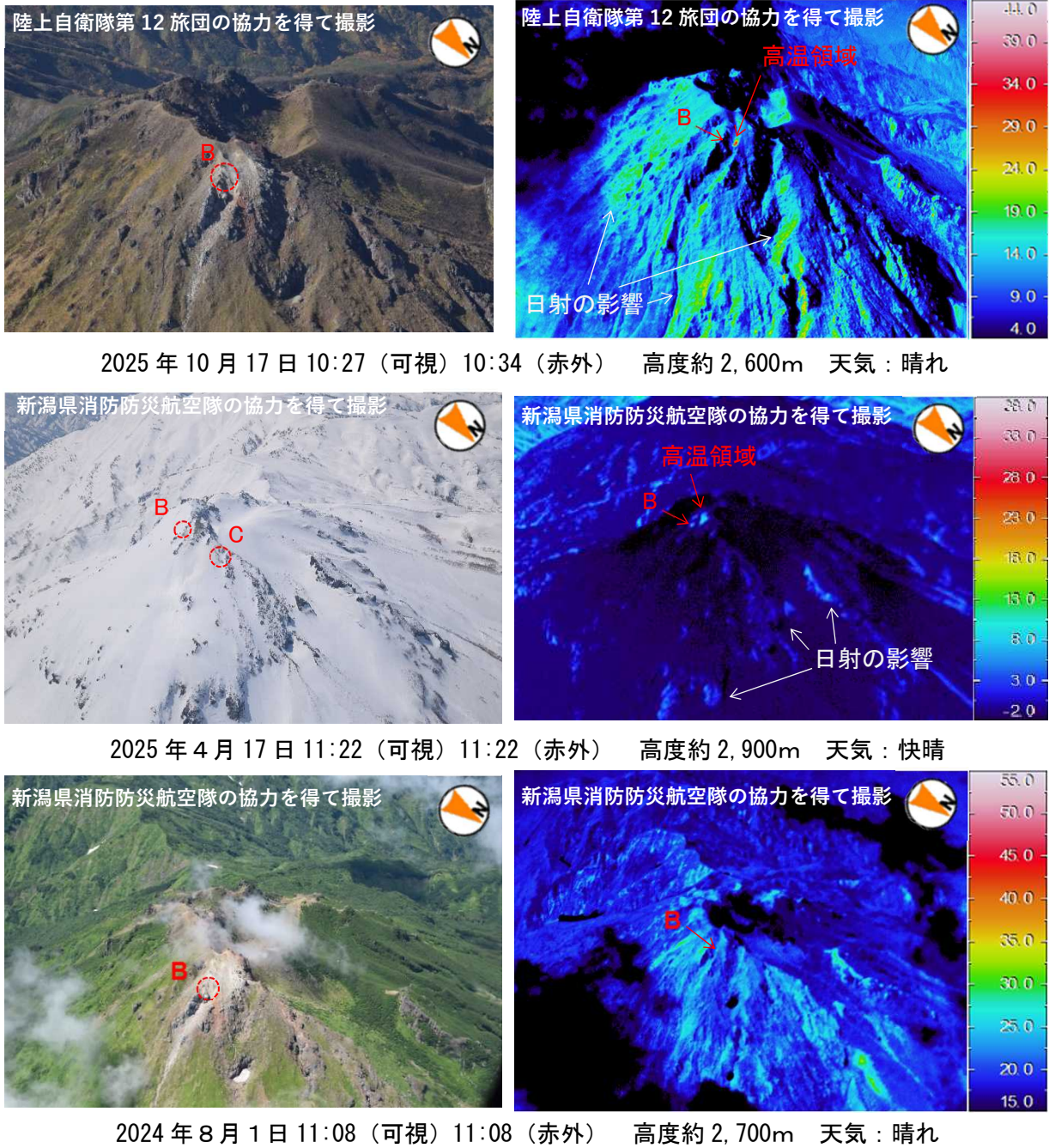


図2 新潟焼山 北東斜面の地熱域の推移

- ・前回（2025年4月）の観測に引き続き、B噴気孔付近では高温領域が認められました。



2025年10月17日10時37分撮影



2025年4月17日11時20分撮影

図3-1 新潟焼山 東斜面（東側噴気孔群）の状況

- ・前回（2025年4月）の観測に引き続き、東側噴気孔群のB噴気孔で白色の噴気が認められました。



2025年10月17日10時24分撮影



2024年8月1日11時05分撮影

図3-2 新潟焼山 北西斜面（北西側噴気孔群）の状況

- ・2024年8月の観測と比較して、北西斜面（北西側噴気孔群）の状況に特段の変化はみられませんでした。

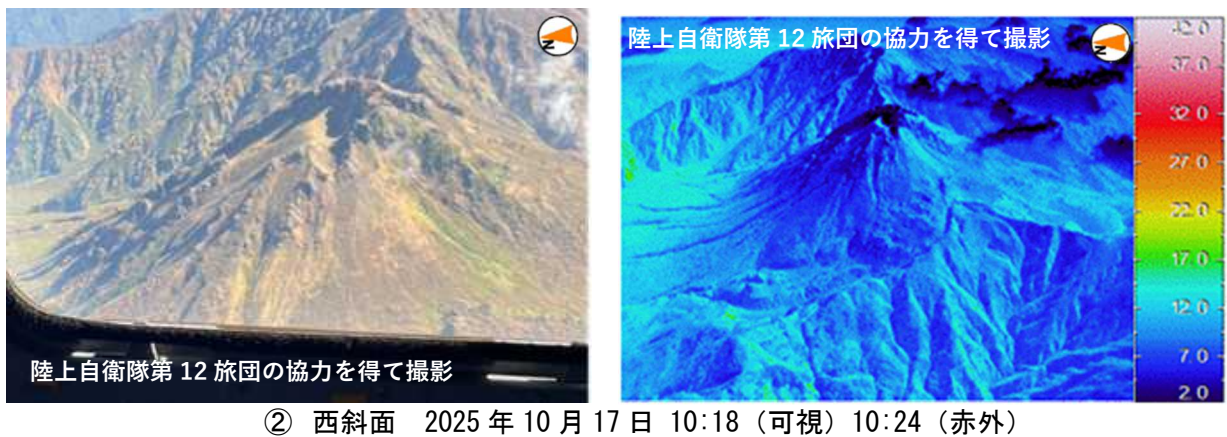


図4－1 新潟焼山 可視画像及び赤外熱映像装置による地表面温度分布
 ・南及び西斜面では日射の影響を超えるような目立った高温領域は認められませんでした。

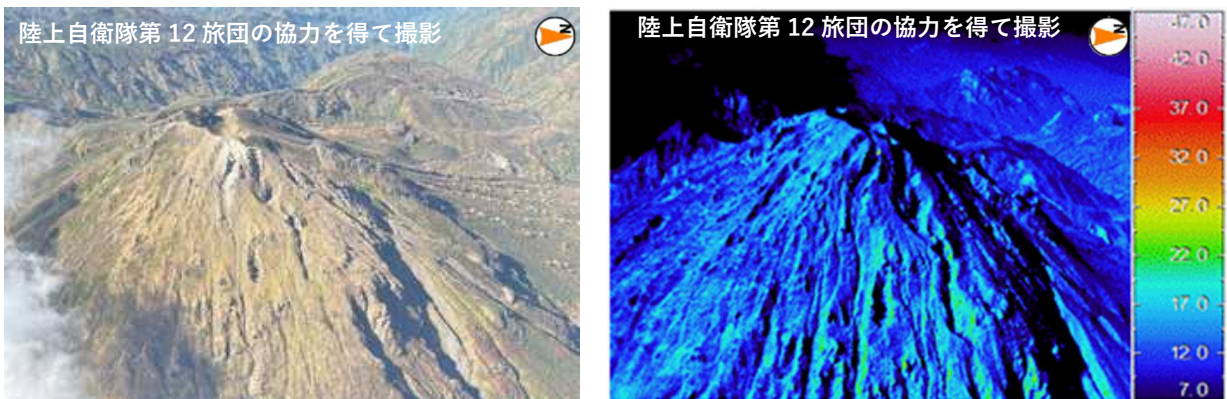


図4－2 新潟焼山 可視画像及び赤外熱映像装置による地表面温度分布

・B噴気孔以外の場所では日射の影響を超えるような目立った高温領域は認められませんでした。

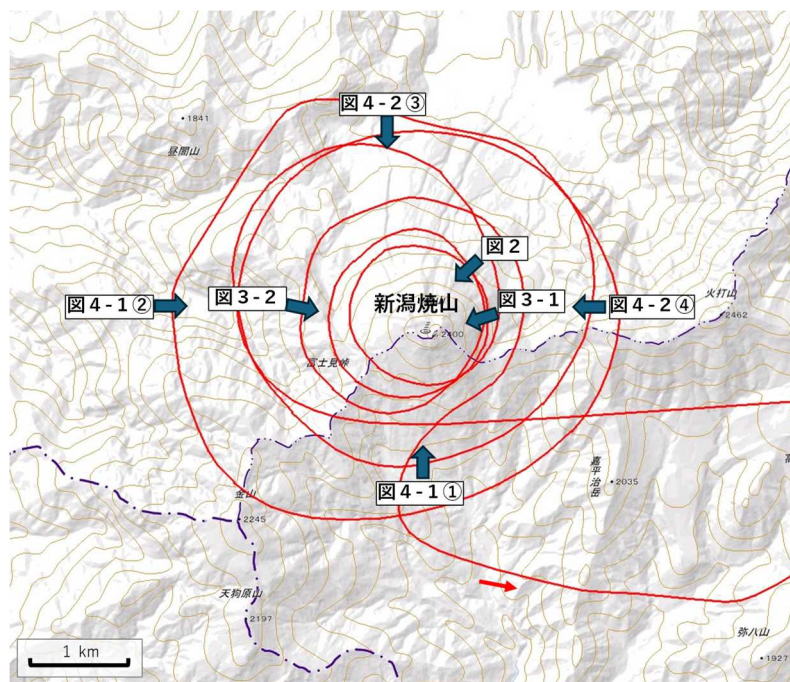


図5 新潟焼山 図2、図3及び図4の撮影位置と撮影方向

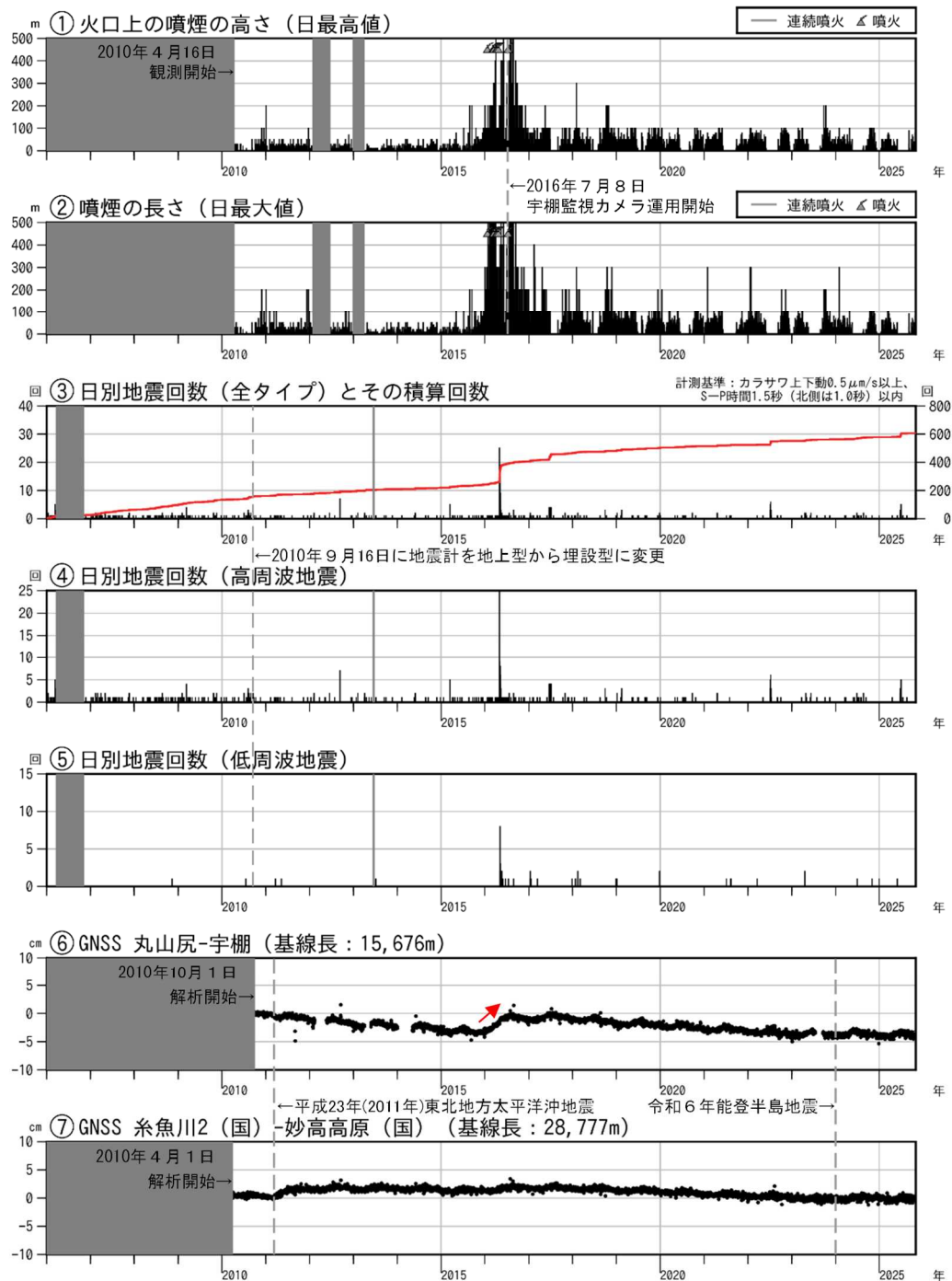


図6 新潟焼山 火山活動経過図（2006年1月1日～2025年10月31日）

（国）：国土地理院

①～⑦：灰色部分は観測前及び解析前のデータのない期間または機器障害による欠測を示します。

①②：夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②、図9参照）のグラフも示しています。2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。2016年の噴火は柳澤ほか（2022）を参考にしています。

④⑤：地震の主な種類（図10参照）ごとの回数を掲載しています。

⑥⑦：図11のGNSS基線⑥⑦に対応しています。空白部分は欠測を示します。平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震、令和6年能登半島地震によるステップを補正しています。

- ・⑥の基線で2016年1月頃から2016年夏頃にかけて伸び（赤矢印）の変化がみられました。
- ・2016年5月頃に火山性地震が増加し、低周波地震も発生しましたが、2016年6月に減少し、それ以降火山性地震は少ない状態で経過しています。

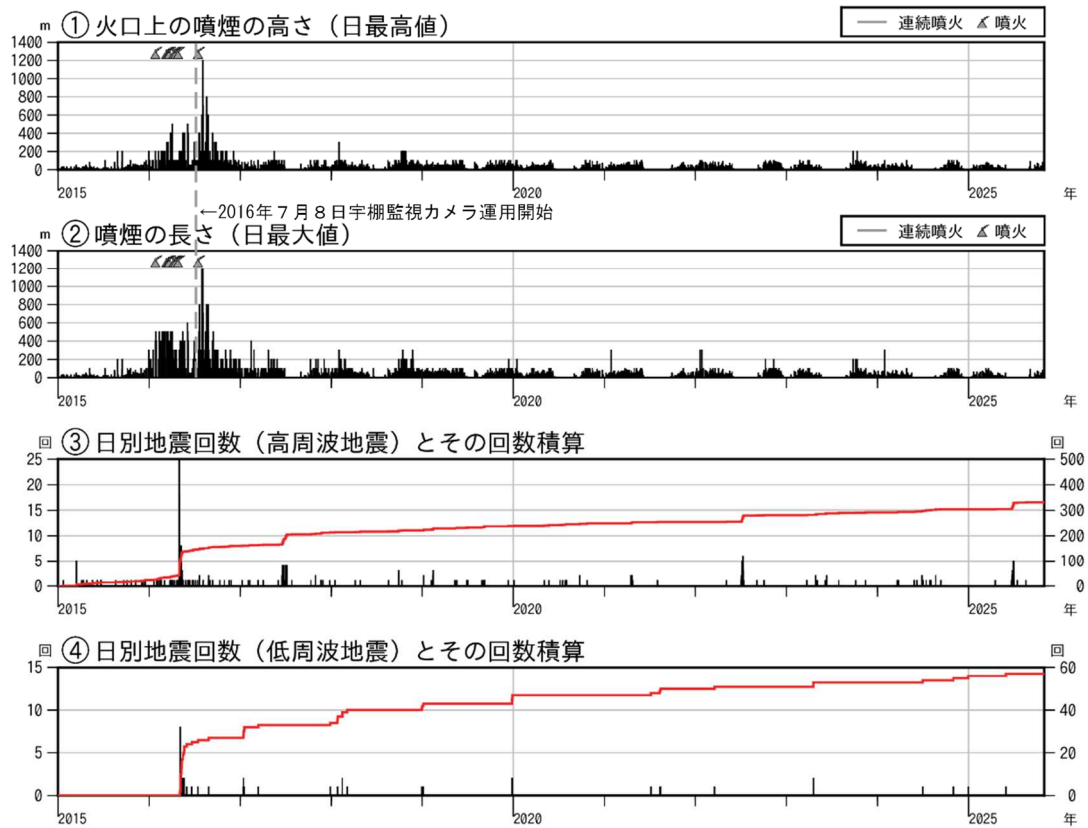


図7 新潟焼山 火山活動経過図（短期）（2015年1月1日～2025年10月31日）

①②：夏場には、視界不良のため山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②、図9参照）のグラフも示しています。2016年7月8日に宇棚監視カメラの運用を開始しました。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。2016年の噴火は柳澤ほか（2022）を参考にしています。

③④：地震の主な種類（図10参照）ごとの回数を掲載しています。

- ・山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上100m以下で経過しました。

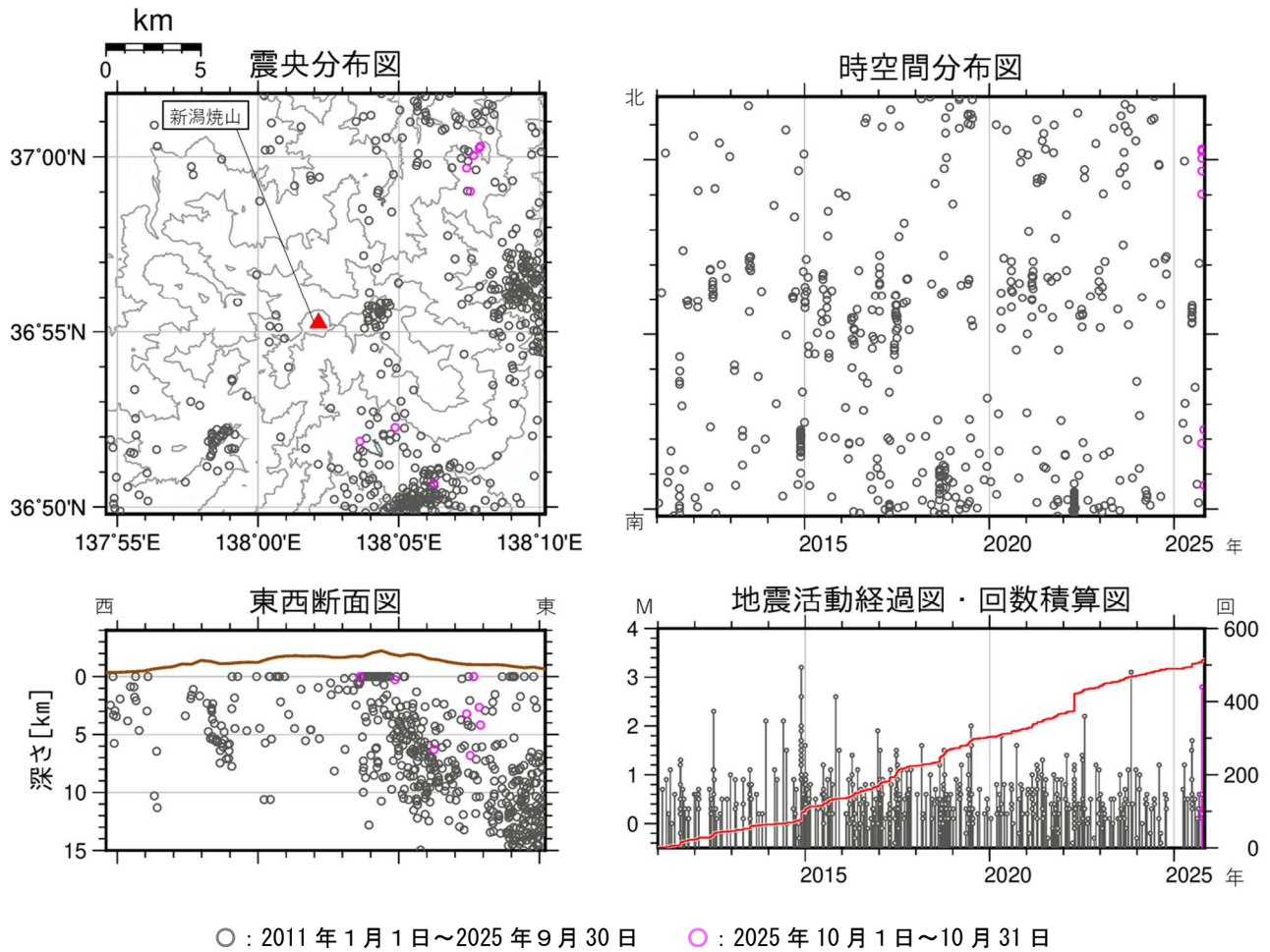


図8 新潟焼山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011年1月1日～2025年10月31日）
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020年9月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 ・新潟焼山周辺を震源とする地震活動は低調に経過しました。

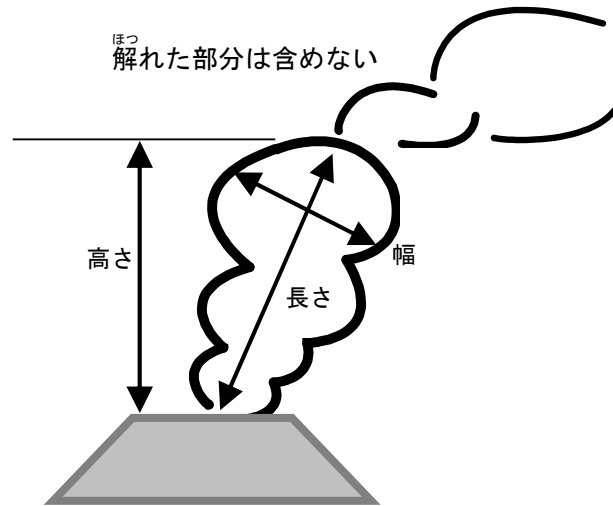
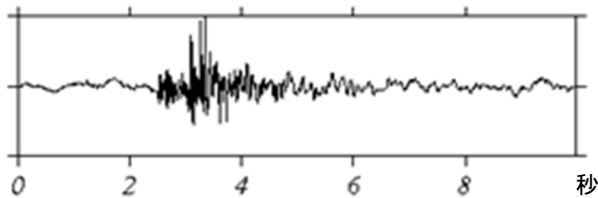


図9 噴煙の長さ、幅、高さの概念図

①高周波地震
(A型地震)

P, S 相が明瞭で卓越周波数は
10Hz 前後と高周波の地震



②低周波地震
(B L型地震)

P, S 相が不明瞭で卓越周波数が
約3 Hz 以下の地震

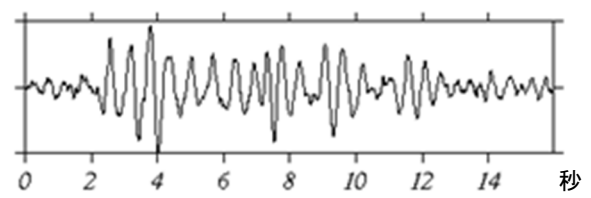


図10 新潟焼山 火山性地震の特徴と波形例

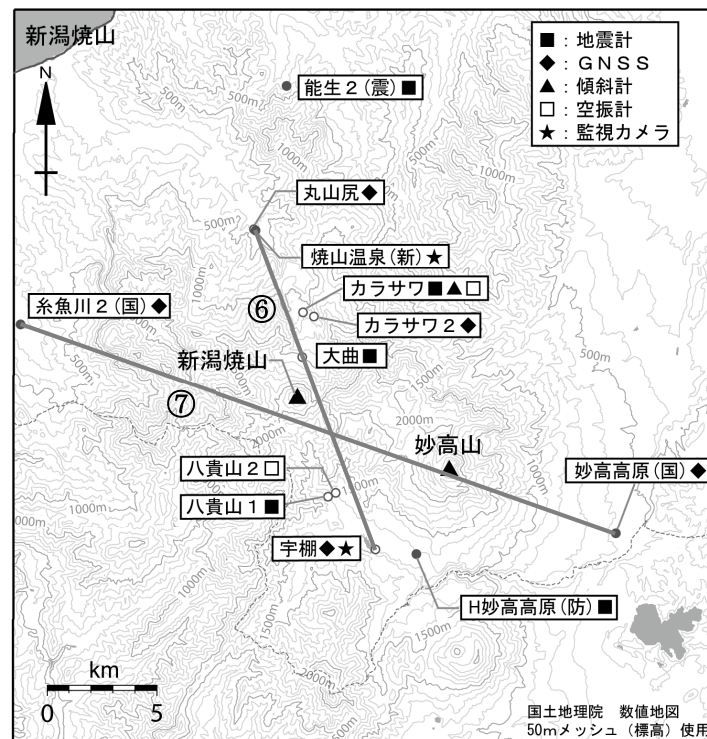


図11 新潟焼山 観測点配置図

GNSS 基線⑥⑦は図6の⑥⑦に対応しています。